

2019. 11. 10

畑 啓之

実家の飼い猫が白血病で余命1週間と診断された ウイルス性で打つ手なしである

10日ほど前より、13歳になる三毛猫の鳴き方が変わり、食べることをやめ、家にもほとんど寄り付かなくなった。夜半や明け方にほんの短時間、屋根の上や庭先に姿を現し、数回大きな声で鳴い後すぐになくなる。やっこのことで捕まえることに成功したが、その体重は2.7kgまで落ち背骨が浮き出るほどにせていた。

早速に動物病院に連れて行き診断を受けたところ、白血病であることが分かり余命1週間であると宣告された。他のネコからの血液を輸血することで死期を伸ばすことができるそうであるが、根本的解決ではないため、家に連れ帰って静かな環境で過ごさせることにした。

食べたり飲んだりする力はもはやなく、死に向かったのカウントダウンが始まっていることは確かなようである。しかし、見ているとネコ自身はそんなに苦しんでいる様子もなく、なでてやると喜んでいられることも確かである。今しばらく看取り介護を続けることになる。ペットではあるが、命とは何かを考えさせられるわが家の事件である。

一つ疑問に思ったことがある。動物病院にお願いすれば、わが家のネコの血液型に合った血液を輸血してもらえるとのことであるが、その血液はどこから得るのだろうか？ 猫白血病はそんなに珍しい病気でもないようなので、輸血の必要性も大きいものと考えられる。そうすると、輸血用血液も安定して供給する必要性が生じ、その供給元の確保が重要となる。速やかに血液が得られるかどうかで動物病院の信用度も変わってくるように思われる。

そこで調べてみると、血液を供給する猫の存在があった。

輸血するための猫「供血猫」をご存知ですか？【獣医師が解説】

<https://nyanpedia.com/post-8531/>

猫ちゃんの血液は長期間保存することは難しいため、手術の機会が多い大規模な動物医療機関の中には、輸血用の血液を提供してくれる猫ちゃんたちを生活させているところもあります。このように献血に協力してくれる猫ちゃんのことを「供血猫」と言います。

また、動物病院によっては、飼い主さんたちに自身の猫ちゃんを供血猫としてドナー登録をお願いし、必要が生じた場合に、血液を提供してもらっています。あるいは、血液型の合う知人の猫ちゃんをお願いし、献血してもらおう飼い主さんも多いようです。

どんなときにうつる？ 猫白血病ウイルス (FeLV) 感染症とは

<https://www.anicom-sompo.co.jp/nekonoshiori/864.html>

猫で注意したい感染症のひとつに「猫白血病ウイルス感染症 (FeLV)」があります。「猫白血病ウイルス感染症」は、その名のとおり猫白血病ウイルス (Feline leukemia virus(FeLV)) の感染によりさまざまな症状が引き起こされる感染症です。

猫白血病ウイルス感染症ってどんな病気？

猫白血病ウイルス感染症は、「白血病」の名前が入ってはいますが、症状としては白血病の他にも、免疫不全や貧血、リンパ腫など白血病とは異なる病気を引き起こすことも多くあります。白血病を含めて「FeLV 関連疾患」といわれるこれらの病気を発症した場合には、残念ながら完治することは難しく、数ヶ月から数年で死に至る感染症です。

しかし、感染した猫のすべてが発症するというわけではありません。ほかの猫から感染しても、年齢や健康状態など免疫機能によっては、感染初期にウイルスを体から排除できる場合もあります。

感染経路は？ 猫同士の接触に注意ウイルス

人に猫の白血病ウイルスがうつる心配は？

いまのところ、猫白血病ウイルスに関しては猫固有のウイルスで、ネコ科以外の人をはじめとする他の動物には感染しないと考えられています。

感染しているか、どうしたらわかるの？

猫白血病ウイルスは、動物病院で血液検査を行うことで、すぐに感染の有無（陽性、陰性）がわかります。

白血病

白血球や赤血球などの血液細胞は骨の中にある骨髄で作られています。猫白血病ウイルスが骨髄に侵入し、正常な白血球が作れなくなります。その結果、異常な白血球が、過剰に作られてしまう状態を言います。極度に免疫力が下がることで、健康なときには問題とならないような常在菌すらガードできなくなり、重篤な症状を起こします。